

教育研究業績書

2020年07月16日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：橋詰 和也

研究分野	研究内容のキーワード
特別支援教育	特別支援教育、インクルーシブ教育システム、肢体不自由教育、発達障害、特別支援教職論
学位	最終学歴
社会学士	大阪教育大学特殊教育特別専攻科言語障害教育専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 特別支援学校教員養成課程における障害児理解を深める教育方法	2017年4月～現在	科目「知的障害教育」における学生の主体的・対話的で深い学びについて、模擬授業、評価シート、録画動画による振り返りを実践している。
2. 特別支援教育のシステムと発達障害児の理解と支援	2013年5月2012年1月	但馬地域300人を対象に演習を交え三時間研修の実施
3. 阪神間肢体不自由特別支援学校10校合同専門研修	2010年4月～現在	年間5～6回勤務後に、阪神間の肢体不自由特別支援学校、知的障害特別支援学校教員が参加し、特に肢体不自由に係る専門研修会、事例研究会を実施。
2 作成した教科書、教材		
1. みんなの教室みんなの授業－教育のユニバーサル－	2015年3月31日	伊丹市特別支援連携協議会の座長となり教師向けの手引き書を二年続けて発刊し研修会等で使用
2. 特別支援教育ハンドブックQ&A	2014年3月31日	
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県教育委員会特別支援教育課主催「学校と福祉機関の連携に係る検討会議」委員長	2019年7月12日	平成30年の文科省と厚労省による家庭、教育、福祉の連携「トライアングルプロジェクト」の報告、通知を踏まえ、兵庫県では、家庭、教育、福祉における一貫した支援を組織的、計画的に進めるための連携マニュアルを作成する検討会議を開催する。
2. 伊丹市特別支援教育審議会委員	2016年4月28日～現在	伊丹市の特別支援教育の在り方について教育、福祉、労働、医療等の関係機関が一堂に会し審議を進める。審議会を母体とし、ワーキンググループを組織し、特別支援教育に係るリーフレットやハンドブックなどを刊行する。
3. 明石市特別支援教育スーパーバイザー	2016年4月1日～現在	明石市教育委員会主催、幼稚園・小学校・中学校校長会主催の特別支援教育に係る研修会等における講師、明石市市内の特別支援教育に係る幼児児童生徒の相談等について指導助言を行う。
4. 近畿特別支援学校（養護学校）研究指定校への指導助言	2016年4月1日～現在	近畿圏内府県市立特別支援学校の内、教育委員会指定研究校からの招聘により当該校への指導助言を行う。2018現在、兵庫県立特別支援学校3校、市立特別支援学校4校において実施。
5. 近畿、県内幼小中学校園への教育相談、研修へ招聘	年間20回程度～現在	学校園での子どもの状況を見て、教員、保護者、管理職等への具体的なアドバイスを行う
6. 管理職、教員、保護者への各種研修会、講演へ招聘	年間30回程度～現在	発達、認知、言語コミュニケーション、自立活動、発達障害等に加え、この数年間はインクルーシブ教育システムの依頼が多い (平成31年度～現在までの主な研修会招聘) ・近畿地区特別支援学校肢体不自由研究協議会講師 ・兵庫県特別支援学校肢体不自由研究協議会講師 ・伊丹市立伊丹特別支援学校校内研修会講師 ・伊丹市特別支援教育審議会 ・阪神間肢体不自由特別支援学校合同専門研修会講師 ・宝塚市立養護学校校内研修会講師 ・兵庫県立神戸特別支援学校校内研修講師 ・兵庫県立阪神特別支援学校校内研修講師 ・兵庫県立姫路特別支援学校校内研修講師 ・尼崎市立あまよう特別支援学校校内研修講師 ・川西市立川西養護学校校内研修講師 ・神戸市立友生養護学校研修会講師 ・明石市立明石養護学校校内研修会講師 ・加古川市立加古川養護学校校内研修会講師 ・兵庫県幼稚園合同研修会講師 ・西宮市立西宮養護学校校内研修講師 ・兵庫県肢体不自由養護学校合同自立活動研修会講師 ・兵庫県特別支援学校校長会全体研修会講師 ・兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会講師
4 その他		
1. 本県の障害児教育の現状と今後の在り方（兵庫県）	2006年3月	兵庫県が目指す特別支援教育の基本理念、盲聾養護学校の現状と在り方、小中学校の障害児教育の在り方、乳幼児期から卒業後までの一貫した支援、教員の専門性など

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		について責任担当者として執筆し、「特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議」（兵庫県教育委員会）より提言をした。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許		
1. 中学校教諭1種（社会）、高等学校教諭1種（社会）、小学校教諭2種、養護学校教諭1種	1979年3月31日～1980年3月31日	

2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県教育委員会障害児教育室「本県の障害児教育の現状と今後の在り方（提言）」	2006年3月	兵庫県教育委員会障害児教育室勤務の際「特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議」を主担当として開催し、40頁の報告書を執筆し現在も県の指針となっている。
2. ひょうご学習障害相談室の開設	2004年6月1日	兵庫県教育委員会障害児教育室主任指導主事兼指導係長として同事業を実施し、全国に先駆けて発達障害にかかわる相談室を開設し、兵庫県内から専門スタッフを招聘した。
3. 盲・聾・養護学校医療的サポート推進事業システム構築と実施	2002年4月1日	兵庫県教育委員会障害児教育室指導主事として同事業を推進し、今では特別支援学校の一般化したシステムとなっている医療的ケアの原型となるシステムを構築した。

4 その他		
1. 教育改善・改革プラン（平成27年度採択提案）障がいのある学生への合理的配慮アクション	2017年12月19日	「武庫川女子大学及び武庫川女子大学短期大学部障がいのある学生支援」の基本的考え方、基本方針を立案し、2017年には学生サポート室の開設につながった。
2. 県教育委員会、市町教育委員会、ロータリークラブ等での研修会講師	2016年4月～現在	発達、認知、言語コミュニケーション、自立活動、発達障害等に加え、この数年間はインクルーシブ教育システムの依頼が多い（個々の学校は除く） （平成30～31年度の主な研修会招聘） ・近畿地区特別支援学校肢体不自由研究協議会講師 ・兵庫県特別支援学校肢体不自由研究協議会講師 ・阪神間肢体不自由特別支援学校合同専門研修会講師 ・兵庫県幼稚園合同研修会講師 ・阪神五校肢体不自由特別支援学校合同PTA研修会講師 ・兵庫県肢体不自由養護学校合同自立活動研修会講師 ・兵庫県特別支援学校校長会全体研修会講師 ・兵庫県肢体不自由養護学校合同コーディネーター研修会講師 ・兵庫県特別支援学校知的障害教育研究協議会講師 ・川西ロータリークラブ研修会
3. 兵庫県教育功労賞授与	2015年12月15日	兵庫県教育の振興に貢献し、その行為が広く県民の模範となる功績があった者として兵庫県知事より表彰を受ける。
4. 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会感謝状授与	2012年6月26日	校長職で全国特別支援学校肢体不自由校長会理事、近畿特別支援学校肢体不自由校長会会長、兵庫県特別支援学校肢体不自由校長会会長等の歴任により受賞

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック～マルチアレンジングサポートの観点から～	共	2016年3月18日	社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団	Ⅱ【指導の手順】P16～P32、Ⅲ【発達の概観】P53～P64、P70～P79、P91～P96、Ⅳ【指導のポイント】P102～P106、P112～P120 橋本正巳、橋詰和也、石倉健二ほか著 障害の重い子どもへの具体的な指導の手引きとなり、本著では、発達、認知、言語、コミュニケーションなどについて詳細に執筆した。ハンドブック全体としては、障害の重い子にかかわる現場の教師がエビデンスを求め得られる著書となっている。
2. 特別支援教育ハンドブックQ&A	共	2014年3月	伊丹市教育委員会	Ⅳ【総論】P86～P97 柘植雅義、梶田徹一、橋詰和也ほか著 特別支援教育指導の実践編として、通常学級、特別支援学級、特別支援学校、特別支援教育コーディネーター、校内体制、連続した学びの場の各編をQ&Aで、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. 小・中 特別支援教育コーディネーターのための実践・新学習指導要領	共	2009年	教育開発研究所	さらに理論編、資料編を加え現場活用書とした。 柘植雅義、橋詰和也ほか著 特別支援学校のセンター的機能により援助を受ける 3章小学校・中学校新学習指導要領(総則)における特別支援教育P77～P78 特別支援学校の地域支援を受けることによる小中学校のメリット、援助を受ける方法等を紹介。
4. 医療的ケアへの対応実践ハンドブック	共	2005年3月22日	全国心身障害児福祉財団	第3章 自治体としての実施体制の整備 IV兵庫県の体制整備と寄宿舎を設置する養護学校の実践 P105～P115 古川勝也、飯野順子、橋詰和也、ほか著 本著は、養護学校における医療的ケアへの対応について、学校、行政、医療、リハビリテーションのそれぞれの立場から、考え方や先進的取り組みについてまとめており、「兵庫県における医療的ケアの考え方と行政としての取り組みの経緯、さらに看護師による寄宿舎での医療的ケアの在り方」について執筆。
5. 療育の窓	共	2003年	全国心身障害児福祉財団	古川勝也、中村雅彦、橋詰和也ほか著 兵庫県における医療的ケア8年の歩み 特集養護学校における医療的ケアへの対応P30～32 養護学校における兵庫県の医療的ケアの考え方と実施内容、今後の課題を紹介
6. 障害児教育ハンドブック	共	1994年3月30日	伊丹市立教育研究所	初めて障害児教育を担当する教員向けに、子どもの実態を踏まえたうえでの感覚運動学習編、ことばの学習編、かずの学習編、生活単元学習編からなる指導書を執筆した。 (感覚運動学習pp:6～26) (ことばの学習pp:9～19) (かずの学習pp:5～20) (生活単元学習pp:1～5)
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 教員養成課程における医療的ケアの教育課程と指導法—教育体制の歴史的背景と課題をふまえて—	共	2020年3月	武庫川女子大学 学校教育センター紀要 第5号	P89～P97 医療的ケアを要する児童が増加し、法改正等の法整備がなされて以降、医療的ケア児の教育の保障意識が大きく変化している。しかし、進歩し続ける医療と保育や教育の現場での対応には依然格差が残っており、教員養成課程での医療的ケア等に関する指導は整理されていない。肢体不自由や病弱に関する特別支援教育課目を含めた教員養成課程での指導法についての課題を検討するため、学校における医療的ケアの歴史的背景と本学での医療的ケアに関する講義構成等を報告する。
2. 特別支援学校教員養成課程における障害児理解を深める教育方法	単	2019年3月	武庫川女子大学 学校教育センター年報 第4号	P103～P113 特別支援学校教員養成課程における大学での授業改善、学生にとっての効果的な教育方法の在り方についての実践研究を、大学での特別支援教育関連関係科目を踏まえ、特に「知的障害教育」に視点をあてて実践を紹介した。
3. 特別支援学校教育実習指導の提言と展望	共	2018年2月23日	武庫川女子大学 学校教育センター年報 第3号	5 実践力養成のための教育実習の在り方についての提言 P29～P31 私立大学での特別支援学校教育実習について、過去5年間の実習学生数及び実習校の分布、実習学部等について集計し、過去2年間の実習報告書による学生の自己評価の記載内容を解析した。自由記述による自己評価についてのコレスボンデンス分析の結果を加えて、実習指導の講義カリキュラム構成と内容など実践力養成のための教育実習の在り方について提言を行った。中村明美、高井弥生、橋詰和也、宇野里砂 共著
4. チーム力で高める授業づくり	共	2012年3月	特別支援教育NO.4 5 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課	各論P20～P23 肢体不自由特別支援学校での小学部の実践を紹介し、授業改善による子ども変化を執筆 細川佳代子、秋田喜代美、橋詰和也ほか著
5. 一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな教育の充実	共	2011年3月	小児看護 Vol.34 No.2 へるす出版	カラーグラフP134～P139 看護著書で初めてとなる特別支援学校の紹介。一人ひとりにきめ細やかに、チーム力を高め動く伊丹特別支援学校の実践を紹介。 勝田仁美、橋詰和也、下山直人ほか著
6. 特別支援教育を推進する 学校経営に関する一考察	共	2009年7月	神戸親和女子大学教育研究センター紀要	3 肢体不自由特別支援学校での実践(1)～(3) P33～P40 肢体不自由特別支援学校での事例と課題をあげ、実践事例に関する検証を記した。 大林恵子、橋詰和也著
7. コミュニケーション意欲を高める指導	共	1989年3月～1990年3月	伊丹市立伊丹養護学校研究紀要	障害児のコミュニケーション意欲を高めるため、IntentionとImpactに視点を当て、生徒の障害の状態と発達段階を踏まえて、より良い教師の関わりかたと生徒の意図的伝達意欲の向上について検証した。 平成元年 (pp:53～86) 平成2年 (pp:43～74)
8. 重度重複障害児における言語指導の一考察	単	1987年3月	大阪教育大学特殊教育特別専攻科特殊教育内	重度重複障害児の言語指導のあり方を探るため、コミュニケーション促進のアプローチ、感覚運動指導

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			地留学研究論文	及び口腔機能の改善アプローチの両面から、聴覚障害、知的障害、肢体不自由の重複障害児の事例を通して指導の効果を考察した。聴覚障害を主障害とし他の障害を併せ有する児童にとっての感覚運動体験は、コミュニケーション活動に刺激を与え、意図的伝達意欲を高めていくことを検証した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 本県の障害児教育の現状と今後の在り方	単	2006年3月	兵庫県教育委員会 障害児教育の在り方検討委員会	兵庫県が目指す特別支援教育の基本理念、盲聾養護学校の現状と在り方、小中学校の障害児教育の在り方、乳幼児期から卒業後までの一貫した支援、教員の専門性などについて責任担当者として執筆と提言をした。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年4月～現在	一般社団法人日本LD学会
2. 2010年4月1日～現在	阪神間の特別支援学校教員有志による特別支援教育自主研修会（手と手の会） 肢体不自由特別支援学校10校合同専門研修
	阪神間